



**SADC - 日本 ビジネス投資フォーラム 概要**  
**2016年6月9日～10日**

- 1. フォーラム名：**SADC - 日本 ビジネス投資フォーラム
- 2. フォーラムの目的：**フォーラムの主要な目的は以下の通り。  
(1) 日本の民間セクターにSADC地域における投融資可能な機会があることを周知させる。(2) SADCと日本の民間セクターとの間にビジネス関係を構築し、両者間でミーティングを行う。(3) 日本とSADC地域間の貿易投資を促進する。(4) SADC地域で成功をしている企業の事例を学ぶ。  
(4) SADC地域における産業化とそのロードマップを促進させる。
- 3. 日時**  
2016年6月9日～10日  
時間：午前9時30分～午後5時40分  
午後6時～午後8時（ネットワークレセプション）  
開場：受付開始 午前8時30分（1日目）
- 4. 場所：** 国連大学 ホール  
〒150-8925 東京都渋谷区神宮前5-53-70  
電話 03-5467-1212 ファックス 03-3499-2828
- 5. テーマ：**『SADC地域における躍動するビジネスと投資機会を享受する』  
*“Embracing Vibrant Business and Investment Opportunities in the SADC Region”*
- 6. 主催：**SADC加盟国駐日大使館、SADC事務局、UNIDO  
PR・プログラムパートナー：日経BP社
- 7. 後援：**国連大学、外務省、経済産業者、アフリカ開発銀行、JICA、JETRO、JBIC、JOGMEC、JATA、経団連、経済同友会
- 8. 推定参加人数：**300  
日本及びSADC地域の企業、投資家、日本政府関係機関、SADC投資促進機関

## 9. 概要:

南部アフリカ開発共同体（SADC）は15の加盟国（アンゴラ、ボツワナ、コンゴ（民）、レソト、マダガスカル、マラウイ、モーリシャス、モザンビーク、ナミビア、シーシェル、南アフリカ、スワジランド、タンザニア、ザンビア、ジンバブエ）からなる地域共同体である。SADCはアフリカ連合に認定されている5つの地域経済共同体の1つであり、1つのアフリカ経済共同体を実現する上で重要な地域共同体である。

SADCの主たる目的は、平和と安定、経済統合を促進することである。南部アフリカ諸国はこれまで文化的・政治的な親和性により団結することで、内部的な問題を解決してきた。SADC地域はアフリカ大陸の中では、どちらかといえば、最も安全で政治的に安定している地域であると広く認識されている。昨今、テロリズムの脅威に世界がさらされている中でも、SADC地域ではこれまでテロ関連の事件を経験していない。

経済面では、地域の経済統合課題が改訂版地域戦略的開発計画指標（RISDP、2015～2020）及び、産業化戦略ロードマップ（2015～2063）に記されている。RISDPには、長期マクロ経済の収斂及び安定プログラムが、産業化に支えられながら地域統合が深められるよう組み込まれている。

2008年～2009年の世界的な金融経済危機下においてもアフリカ大陸におけるマクロ経済動向は目を見張るものがあった。同時期のヨーロッパ、アジア、アメリカ格各国の景気動向は低迷していた。貧困や失業などまだ課題は残されているものの、アフリカはこの10年では至上2番目の速さで成長を続けている大陸である。多くのアフリカ諸国は自国経済を採取産業への重度な依存からインフラ、通信、製造、小売といった産業へと多様化させている。

南部アフリカ地域は世界で急速な経済成長をとげている国々の中心である。SADCはまた、サハラ以南のアフリカ地域（SSA）の中では最大で最もダイナミックな地域経済グループとみなされている。SADC経済はアフリカ大陸全体のGDPの半数を占め、1人あたりの国民所得は大陸平均のおよそ1.7倍である。

2015年の世界銀行の「ビジネスの行いやすさ」の報告では、ビジネスを行いやすい環境があると判断されるアフリカ上位10カ国のうち6カ国がSADC加盟国であり、アフリカの投資先上位10カ国のうち上位5カ国がSADC加盟国であるとしている。さらに、2015年のIMFによる世界経済見通しでは、経済成長が最も加速している上位10カ国（G

DP成長による)のうち6カ国がアフリカの国々であり、うち4カ国がSADC地域の国々であるとされる。

こうした目を見張るようなランキングは、地域の政治的安定性、長きにわたり自由市場が機能的に確立していること、大きな市場可能性、3億5千万人の人口、巨大な原材料のベース、豊富で安価な労働力、民間消費、鉱業やインフラへの強力な投資といったファクターにより反映された直接的な結果といえる。

近年の低成長、金融変動といったグローバルな経済環境は、SADCが多様性と構造改革へ向けた政策に焦点をあてる好機となった。SADC地域は他の地域経済共同体に比べても比較的優位であるとは言えるものの、トータルフローやグローバルなヴァリューチェーンにおける位置づけからすれば、貿易投資分野をさらに強化していかなければならない。

TICAD以前では、日本の民間セクターや一般市民の間ではアフリカの様々な地域で存在するビジネスチャンスについてはほとんど知られていなかった。アフリカは、大きくて、単一的で、絶えず戦争がおきている、貧困で明るい未来が見えない大陸であると誤解されてきた。もうひとつの大きな誤解はアフリカのビジネスといえば一次産品のみであって、現地でビジネスをするにはリスクが大きすぎるとされてきた。

TICADは1993年の発足より、こうした誤った印象を変えていく上で大きな役割を果たした。アフリカは今日ではその目覚ましい人口動向により、将来性のある投資先、成長フロンティアとしてみなされている。日本の産業界、社会一般においてアフリカの潜在性と新興市場としてのビジネスチャンスが広く認識されるようになった。

今年はTICADサミットがケニアのナイロビで開催される。TICAD会議がアフリカで開催されるのは初めてのことである。TICADのプロセスにおいて、日本とアフリカ関係がより活発なものになってきたといえるが、これは、国際社会とのパートナーシップを通じつつ、自らの発展という「アフリカのオーナーシップ」の重要性を強調することで培われてきた。SADCはTICADプロセスの中で日本の民間セクターにおける同地域に対する貿易投資を振興させる取り組みが行われたことに深く感謝している。2013年6月には、安部首相と日本の企業幹部がアフリカの数カ国を訪問した。首相の訪問はアフリカとのビジネス促進へのはずみとなっただけでなく、日本アフリカ関係の重要性を示すものともなった。

SADC加盟国である12の駐日大使館はSADC地域のさらなる経済発展の寄与のため日本の民間セクターの参加を熱望している。本フォーラムは日本の産業界とSADCの間における政策や情報・意見交換の場となる。

2008年～2009年の経済危機の後、散発的な回復を長きに渡って見てきた日本の民間セクターにとって、堅調な経済成長をとげているSADC地域に目を向ける上で本フォーラムは心強いものといえる。SADC地域は安定した政治、規制体制、豊富な天然資源、職と消費財を求める増加する若年人口を有している。

#### **10. 期待される成果:**

貿易・投資を加速させるSADC-日本間の戦略的協調関係の強化